

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501511
法人名	㈱えひめメディコープ
事業所名	グループホーム とらや
所在地	愛媛県新居浜市若水町2-7-4
自己評価作成日	H28年7月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

築約65年のとらや旅館を改築し運営しています。「なんだか懐かしい」「いい雰囲気」の建物です。町中に有りながら裏に畑があり中庭があり、畑に来る猫や鳥、(イタチやタヌキの目撃証言まで..)が見られます。『笑顔のある暮らし』の理念の下職員11名(内看護師2名)で頑張っています。高齢化、重度化が進んでいますが、協立病院と24時間連携ほぼ毎日看護師の出勤がある安心の体制です。皆で一斉の外出行事も難しくなっていますが家族やボランティアさんの協力で何とか毎月笑顔につなげられる行事を企画しています。利用者と職員が1対1で出かける夢叶えツアーや愛護班との餅つき大会も今後継続していきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●自治会に加入して、七草粥、校区の運動会、文化祭等に参加して地域の方達と交流している。事業所で行う芋炊き会や餅つきには、近所の方や愛護班の方を誘い、利用者が子ども達とも交流できるよう支援している。「新居浜市認知症高齢者見守り協力機関」として登録しており、玄関にシールを貼っていた。9月から、併設施設を利用し「認知症カフェ」を開催予定で、「相談支援」も行う予定がある。
●「夢叶えツアー」として、利用者の誕生日頃に「行きたい所、会いたい人の所へ行く」事を担当職員が家族と協力して支援している。娘さんと妹さん宅へ行き、外食をして帰ったり、お墓参りに行ったケースもある。知り合いからハガキが届いた際には、返事を出せるよう支援するようなケースもある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19) 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム とらや

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

高橋 美香

評価完了日

2016年7月3日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑顔のある暮らし」の理念の実践を胸に日々の介護に取り組んでいる。理念は、食堂、ロッカー室の目に付く所に掲示し、いつも意識している。 (外部評価) 「笑顔のある暮らし」と理念を掲げており、パンフレットに明示したり、玄関に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 前年は自治会2組の組長として地域役員会へ毎月参加しお世話をしていた。また地域の行事には、利用者とともにできる限り参加しており、声かけもしてもらっている。(七草、校区運動会、文化祭、自治会大掃除等) 毎日の買い物では、顔を合わせた地域の方と挨拶を交わしている。 (外部評価) 自治会に加入して、七草粥、校区の運動会、文化祭等に参加して地域の方達と交流している。事業所で行う芋炊き会や餅つきには、近所の方や愛護班の方を誘い、利用者が子ども達とも交流できるよう支援している。「新居浜市認知症高齢者見守り協力機関」として登録しており、玄関にシールを貼っていた。9月から、併設施設を利用し「認知症カフェ」を開催予定で、「相談支援」も行う予定がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 前年度より「新居浜市認知症高齢者見守り協力機関」として登録。運営推進会議で地域の方に話しをしたりしている。今年9月より新居浜市の在宅介護支援事業の一環として「認知症カフェ」を組合員、職員、地域の方で協力し開催予定している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、毎月の行事や取り組み、アクシデント、インシデント報告等サービスの実際について報告。意見をいただいている。他のグループホームの運営推進会との交流で意見の交換や勉強会を行っている。	
			(外部評価) 会議は、母体病院の会議室で行っており、地域の婦人会、老人会、自治会の方、地域包括支援センターの担当者、家族の参加がある。会議時には、事業所の活動報告やアクシデント、インシデント報告を行い、併せて施設見学や避難訓練等も行っているが、参加者から具体的な意見はあまり出ないようだ。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 日頃より、不明な点は介護福祉課へ相談している。運営推進会議には包括支援センターより参加してもらったり、勉強会には市の出前講座で講師をお願いしたりしている。昨年度より、「認知症高齢者見守り協力機関」として登録している。	
			(外部評価) 2ヶ月に1回介護相談員の訪問があり、利用者の話を聞いてくれている。運営推進会議時に行う勉強会には、市の「出前講座」を利用している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修会へ参加し、学習会へつなげ職員全体が、身体拘束をしないケアへの認識をしっかりと持ち、日頃の介護に関わっている。玄関への施錠はないが、歩行不安定な利用者が自室でひとりになる時、センサーやマットの設置(音の拘束)を行い、トイレ移乗時の見守り等に迅速な対応ができるようにしている。	
			(外部評価) 職員は、内・外部研修で身体拘束について勉強をしている。玄関には、カメラ付きのセンサー、2階の廊下にはセンサー、歩行不安定で転倒の心配がある利用者には、ベッドの足元にセンサーマットを使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 毎年研修会へ参加し施設内学習会をおこない虐待についての認識をしっかりと持ち日々の介護に携わっている。また、ストレスを溜めないように、気づきノートの活用で感情の表出や何でも言い合える雰囲気作りを心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を、関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会があれば参加するようにし、対象入居者がいれば家族と連絡し合い必要に応じて連携病院のソーシャルワーカーへ相談できる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前には、何回か家族、利用者を訪ねアセスメント説明を重ねて、契約を結ぶようにしている。改定の際は家族会等で十分な説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関には意見箱を設置、又年2回家族会を持ち、意見や要望を聞くようにしている。又2年に1回医療生協アンケートでも家族等の意見が反映され、職員の部会や家族会で検討がされている。	
			(外部評価) 家族には、毎月「とらちゃん通信」を送付している。又、運営推進会議や施設利用委員会の議事録、個別に利用者の状況や小遣い帳の写し、行事予定等を送付している。花見、芋炊き、餅つき等の行事時には、家族にも案内をしている。又、他の行事も希望があれば参加できることを知らせている。家族には「面会時は職員に声をかけてください」とお願いしており、居室に案内して普段の利用者の様子を報告して要望を聞いている。居室に「連絡ボード」を置き、家族と連絡のやり取りを行っているケースもある。家族会を年2回開催しており、要望や意見、感想等を聞き取り、話し合う時間を設けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			日々の気づきや提案は、気づきノートに記入してもらい、月1回の部会で業務内容の検討をしている。また、年に2回職員個々の面接を行い、意見要望を聞くようにしている。	
			(外部評価)	
			月一回の部会時に、行事の反省、アクシデント、研修報告、気づき等を話し合っている。管理者は、職員の様子について気になるような時には、職員から話ができるように、「体調が悪いの？」等と言って声をかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			取締役会に、毎月の経営、運営状況を提出し、月1回取締役会に参加し、意見を出し合い職場作りに努めている。職場の環境整備に必要なものは、決裁願いを上げ購入、設置に努めている。	
			(外部評価)	
			面接にて、個々の職場目標への達成に向けどのようなことが必要か明らかにし、各人が参加したい研修の情報を提供、事業所内研修等も勧めている。会社とし研修費や交通費の助成も行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			面接にて、個々の職場目標への達成に向けどのようなことが必要か明らかにし、各人が参加したい研修の情報を提供、事業所内研修等も勧めている。会社とし研修費や交通費の助成も行っている。	
			(外部評価)	
			面接にて、個々の職場目標への達成に向けどのようなことが必要か明らかにし、各人が参加したい研修の情報を提供、事業所内研修等も勧めている。会社とし研修費や交通費の助成も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			県のグループホーム協会に加盟し、総会や研修会に参加している。昨年度は相互評価に2名参加し他グループホームとの交流をおこなった。	
			(外部評価)	
			県のグループホーム協会に加盟し、総会や研修会に参加している。昨年度は相互評価に2名参加し他グループホームとの交流をおこなった。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居時には、家族、利用者とは面談を行い本人や家族の不安や要望を聞き取り一つ一つに丁寧に答えるようにしている。環境が変わることの不安や心細さに寄り添うような声掛けや対応を心がけている。	
			(外部評価)	
			入居時には、家族、利用者とは面談を行い本人や家族の不安や要望を聞き取り一つ一つに丁寧に答えるようにしている。環境が変わることの不安や心細さに寄り添うような声掛けや対応を心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時には、家族と面談を行いアセスメントシートを仕上げるとともに、家族の不安や要望を聞き取り一つ一つ丁寧に答えるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居された時にまず「できること、できないこと」「わかること、わからないこと」をカルテに集中し、その時々にあった介護を提供できるようにこころがけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の洗濯物干しやたたみ、食事の下ごしらえ、買い物、お盆拭き等それぞれができることを負担にならない範囲でお願いし、感謝の気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月の定期受診、衣替えや布団の入れ替えをおねがいでいる。また、誕生会や行事、日常の面会などは、気軽にきていただけるように日頃からの関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 2012年より、入居者様の誕生月に担当者がご本人や家族と相談し本人が、一番望んでいる場所へ出掛けたり、昔なじみの人にあったり、懐かしい場所を訪れたりする「夢叶えツアー」を実施している。 (外部評価) 「夢叶えツアー」として、利用者の誕生日頃に「行きたい所、会いたい人の所へ行く」事を担当職員が家族と協力して支援している。娘さんと妹さん宅へ行き、外食をして帰ったり、お墓参りに行ったケースもある。知り合いからハガキが届いた際には、返事を出せるよう支援するようなケースもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の会話や動きに十分気を配り、間に入ったり話をつないだりしている。状況をみながら席替えをしたり小まめな対応を心がけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 昨年度は、「虹の家10周年」があり招待状を送った。参加は出来なかったが、温かいメッセージを送っていただいた。年賀状は送るようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 3ヶ月に1回担当者により介護計画の見直しを行っている。また月1回の検討会で現状を話し合い職員間で情報を共有している。 (外部評価) 年1回、誕生会の日を捉えて、「今の私の姿です」シートを用いて、会いたい人、嬉しい事楽しい事、不安や苦痛、生活上での希望等について、本人と家族から聞き取ったり、記入してもらい、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時アセスメントシートにて家族や本人より聞き取り、とらやの暮らしの中での快い過ごしかたや居場所作りのヒントに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎月の検討会にて、職員一人一人が気づいた事を出し合い入居者の現状把握し介護の統一に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 3か月に1回介護支援専門員を中心に計画作成担当者、が集まり、看護師の意見や家族の意向を踏まえて、それぞれのケアプランのモニタリング、新しい課題や現状に即した介護計画の立案を行っている。</p> <p>(外部評価) 月一回の「介護検討会」時に、利用者の出来ること、出来ない事等を話し合い、カンファレンスノートに記録している。検討会での意見を踏まえて3ヶ月ごとにモニタリングを行い、見直しにつなげている。日々の介護記録には、短期目標に振った番号を記入して記録しており、又、本人の言動や職員の気付きも記入している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録にケアプランの番号をそれぞれのスタッフが記入しそのケアがどの目標に基づいて行われているか、解る様にしている。また、気付きも記入するようにしており検討会や介護計画で話し合うようにしている</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 家族の対応しきれない突発的な受診や、訪問理容、ボランティアによる体操や音楽レク等本人や家族の希望を出来るだけ取り入れるようにしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域のスーパーへ職員と買い物に出かけたり、自治会での行事(七草粥、子供太鼓)へでかけたり、校区の運動会や文化祭へ参加したりしている。また2か月に1度介護相談員が訪問し利用者の話を傾聴してくれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 契約時かかりつけ医を聞き、何かあればかかりつけ医で対応できるよう心掛けている。定期受診はできるだけ家族対応で、毎月の情報が正確に伝わるように「現状」の用紙を渡している。急な熱発等の時は家族と相談し事業所対応の受診を行っている。</p> <p>(外部評価) かかりつけ医の定期受診は家族に依頼しており、家族の都合によって職員が同行している。受診に行くことが難しい状態の利用者には、協力医が2週間に1回往診してくれるようになっている。協力病院は、緊急時は24時間対応してくれる。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 月1回のカンファレンスでは、日々のケアでの不安な所を相談、助言を貰っている。一般状態に限らず皮膚の状態等も何か変化があれば看護師に情報を集中している。受診等が必要な時は施設長に報告し、看護師もしくは施設長が対応している。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入院時は、速やかに介護サマリーを作成し病棟看護師へ施設での細かな情報を伝えるようにしている。病棟との連携をとり病状把握に努め利用者が安心して治療を受け早期退院が出来るよう努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ターミナルについては、契約時と年1回に意思確認をし、家族本人へ説明を行っている。重度化した場合家族と相談し往診対応にしたり、状況に応じて相談を行っている。協立病院と24時間医療連携をとり支援体制をとっている。</p> <p>(外部評価) 「今の私の姿です」シートに沿って「ターミナルについての願いや要望」を確認している。調査訪問時、終末期の方で医師、家族、職員で話し合い、往診を受けながら、プリン、とろろ芋、水羊羹、野菜ジュース等、好きなものを口から食べて、又、看護職がバイタルサインのチェック等、体調管理をしながら過ごしている様子が見られた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回の学習により振り返りはしているが、実践力が身についたとはいえない。昨年は、消防署の方に講師をお願いし救命救急の実技を行った。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回、夜間想定も含めて防火避難訓練は行っているが、その他の想定訓練は行っていない。避難訓練時に年1回運営推進会議のメンバーにも参加をお願いしている。 (外部評価) 消防署の協力を得て、併設デイサービスと合同で避難訓練を行っている。その他に事業所内でも避難訓練や通報訓練を行っている。地域の自主防災訓練に職員が参加し、簡易タンカーの作り方、砂袋の作り方等を習った。	さらに、災害のいろいろな場面を想定して訓練を重ね、利用者、職員の安全安心を守れるような体制作りをすすめてほしい。地域との協力体制づくりに向けて、具体的な話し合いの機会を持ってほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の人格を尊重しながら声かけをしているが、本人との馴染みの関係での声掛けや対応になっていることもある。 (外部評価) 洗濯物たたみの際には、利用者の身体レベルを踏まえてできることをお願いする等して支援している。入浴介助や排泄介助時、異性の職員がかかわる折には、なるべく後ろに廻り、羞恥心に配慮して支援している。水道の水が出っぱなしの時には、職員がさりげなく止めるようにしている。排泄用品の収納については、気になる点が見られた。	利用者の排泄用品が外部者からも見えるようなところもあるが、これを機に、プライバシー保護の観点から環境整備についても、さらに配慮ができることはないか話し合ってみてはどうだろうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で自己決定が必要な場面では、必ず本人に聞くように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ本人のペースで生活できるように支援しているが、食事時間や入浴時間は1日の流れの中で決まってきたりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時 自分で服を選んでもらったり声掛けし整容してもらったりしている。希望者は月1回訪問理容の方にカットをお願いしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下ごしらえや配膳、お茶パック詰めなどを出来る方で協力してもらっている。食後のお盆拭きや台拭きも担ってもらっている。	
			(外部評価) 5月から、昼食の副食のみ母体病院からできたものが届くようになっていた。朝・夕食は事業所で手作りしている。食材は近所のスーパーへ利用者と一緒に行き物に行ったり、畑で採れた野菜を使用している。月一回、「実演給食」の日を設けており、調理専門の職員が利用者の目の前でオムライスや握りずし、天ぷら等を作り、利用者の楽しみとなっている。お茶碗、お箸、コップは利用者個人のものを使用している。職員は利用者と同じ物を同じテーブルで食べていた。月に一回法人の給食委員会があり、利用者の希望や野菜の切り方、湯がき方、味付け等、感想や意見を伝えて話し合っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量や食事の摂取量をチェック表に記入し必要な水分、栄養が摂れているか把握に努め、食の細かい方にも摂取して頂けるよう好みのもので揃っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 義歯の洗浄や歯磨きの声掛け口腔スポンジでの洗浄を行っている。できない所は職員が介助し歯磨きチェック表にてチェックしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>その人の生活リズムやシグナルに沿い誘導を行っている。またトイレに入った時を見計らってパット交換や上げ下ろしの介助をしたり、出来るだけ自分でトイレ排泄が出来るような援助を心掛けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>個々の排泄パターンを見て、声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援している。昼間はトイレへ行くが、夜間はポータブルトイレを使用している方もある。トイレは西日が射すと暑くなるため、トイレに扇風機を置いている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排便チェック表で排便の状況をチェックし、その人の体調に合わせた飲み物等で水分を摂ってもらったり体操にて体を動かしてもらおうよう声掛けしている。それでもスムーズにいかない時は、担当医と相談し定期的な下剤で排便をコントロールしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴チェック表を元に、毎日必要な方から声掛けし入浴してもらっている。便失禁等で入浴が午前中必要な方以外は午後からの入浴になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週2回の入浴を基本として支援している。夏は脱衣場が暑いため入り口の戸を開けて、すだれやのれんを使用し、冷風扇を置いている。皮膚が乾燥気味の方には固形石鹸を使っている。暑い湯が好きな方、ぬるい湯がいい方等、希望に沿って支援している。バスボードや椅子を使用して湯船に浸かれるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その人の体調や昨夜の入眠状況を知り、うたた寝や傾眠があれば自室での臥床も援助している。個々の生活習慣に合った休息をとってもらっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のカルテに薬剤情報を綴じいつでも情報を知ることが出来る。薬に変化のあった時は必ず申し送りして伝達している。臨時薬が出た時は『臨時薬ボード』に記入し漏れの無い様にしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) アセスメントシートを元に本人の得意なこと好きなことを伸ばせるように、また楽しめるように皆で知恵を出し合い援助している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望を聞きながら、月1回の外出行事と屋内での行事を計画している。体制の厳しい時はボランティアや家族の協力をお願いしている。年1回夢叶エツアーを企画し、馴染みの人に会いに行ったり、懐かしい場所や行きたい場所へ担当者として1対1(家族と共に)での外出援助を行っている。 (外部評価) 日常的に近所のスーパーに買い物に出かけている。季節に応じて芍薬、菖蒲等、花を見に行ったり外食を楽しんでいる。「夢叶エツアー」でデパートに買い物に行ったり、生まれ故郷まで出かけることを支援したケースもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) こずかいには、施設預かりと、ある程度理解できる人、希望の人は本人持ちこずかいを持っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は子機を使用し、いつでも希望があれば対応している。年賀状の時期には声掛けし希望者にはハガキの購入等を支援している。郵便があれば本人へ渡し返事の投函も援助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家庭のような雰囲気を出すように、季節の花を飾ったり、食事をしながら、庭の畑や、そこに来る動物が見え季節を感じることが出来るようにしている。テレビ以外に心地よい音楽を流すようにしている。</p> <p>(外部評価) 建物は、築65年の元旅館で、鴨居や欄間の名残がある。玄関や洗面所にはアジサイやダリアの花を生けていた。ウッドデッキにはソファを置き、休めるようにしている。外にはゴーヤを植え、屋根には寒冷紗を張って日除けにしている。中庭に畑を作っており、トマト、なす、きゅうり、かぼちゃ等が育っていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ウッドデッキにソファを置き好きな時に座れるようにしている。そこでおしゃべりしながら一緒に洗濯物を干したりたたんだり、おやつを食べたりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 出来る限り本人の使い慣れた物、馴染みのある物を持ってきてもらっている。</p> <p>(外部評価) 入り口の戸は障子戸で引き戸になっている。畳敷きの部屋にベッドを置いている方、直に布団を敷く方がいる。仏壇を持ち込んでいる方は、利用者の代わりに、現在は、毎朝、職員がお茶を供えている。ひ孫からの「誕生日メッセージ」を貼っている方や、若い時に自分の着物で作った人形を置いている方もいる。水筒に白湯を用意して、いつでも飲めるようにしている方もいる。新聞を見て、見たいテレビ番組をメモし、自室でテレビを楽しむ方がいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) できるだけ、状況に応じ、見守りにて安全を確保しながら行動してもらっている。又必要に応じ手すりや案内板を設置している。</p>	